

安心して子どもを産み  
育てられる東京

大正大学 西郷泰之

# 私の提案領域

西郷泰之(大正大学)

レッドゾーン

イエローゾーン

グレーゾーン

ホワイトゾーン

提案1

提案2

提案2

# すべての子どもたちのための 2つの提案



① 「待っている」だけの支援からの転換  
「ホームビジティング」の導入



② 子どもたちの未来のために  
オリンピックを活用

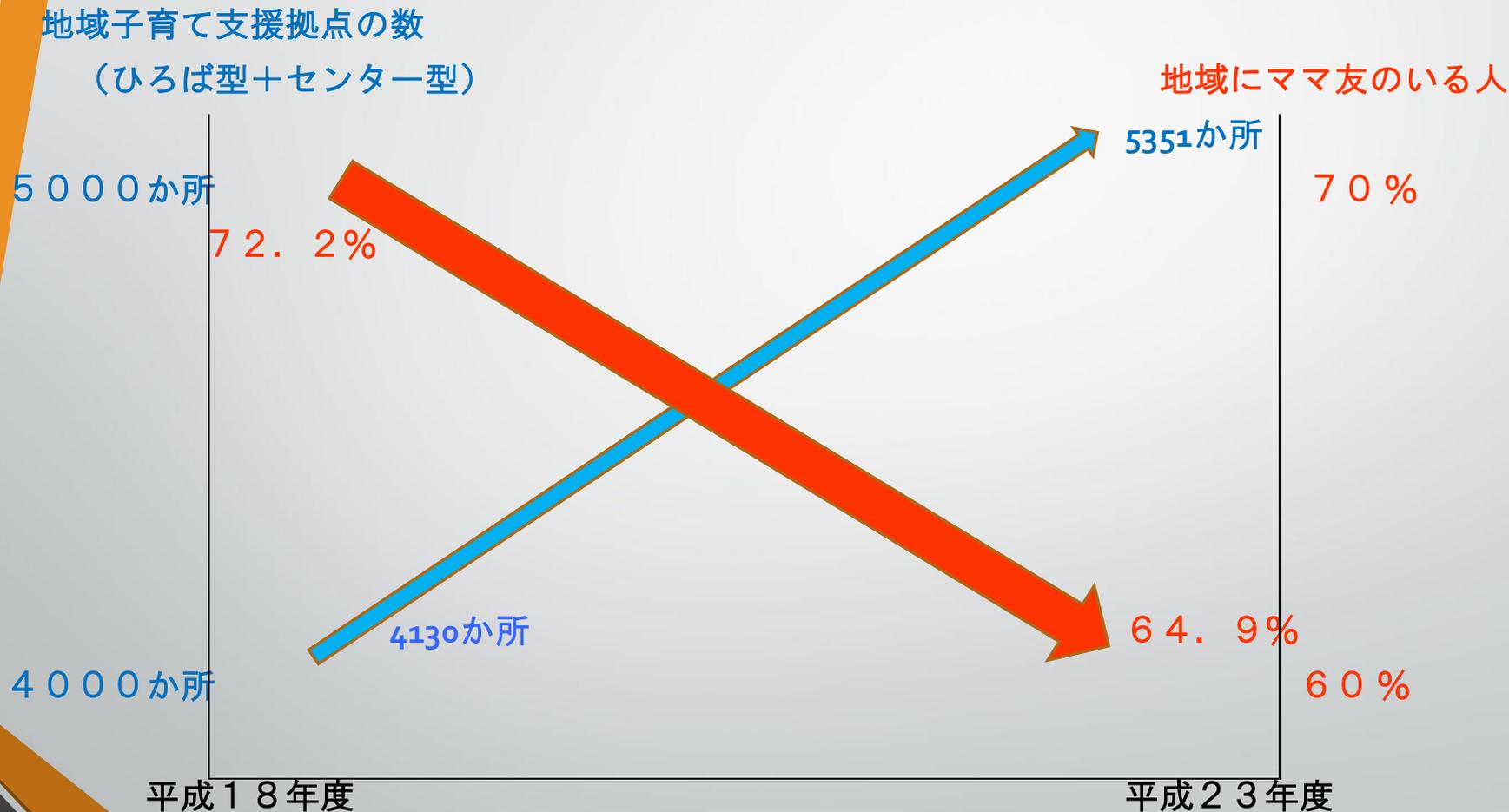
「待っている」だけの支援からの転換

# 「ホームビジット」の導入



# 「子ども同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人」<sup>®</sup> がいる家庭が **約1割減少** (0~2歳児の親)

ベネッセ次世代育成研究所「第2回妊娠出産子育て基本調査(2011)」



\* 「子育ての相談相手が多い母親ほど、子育てへの自信が高いという傾向」も

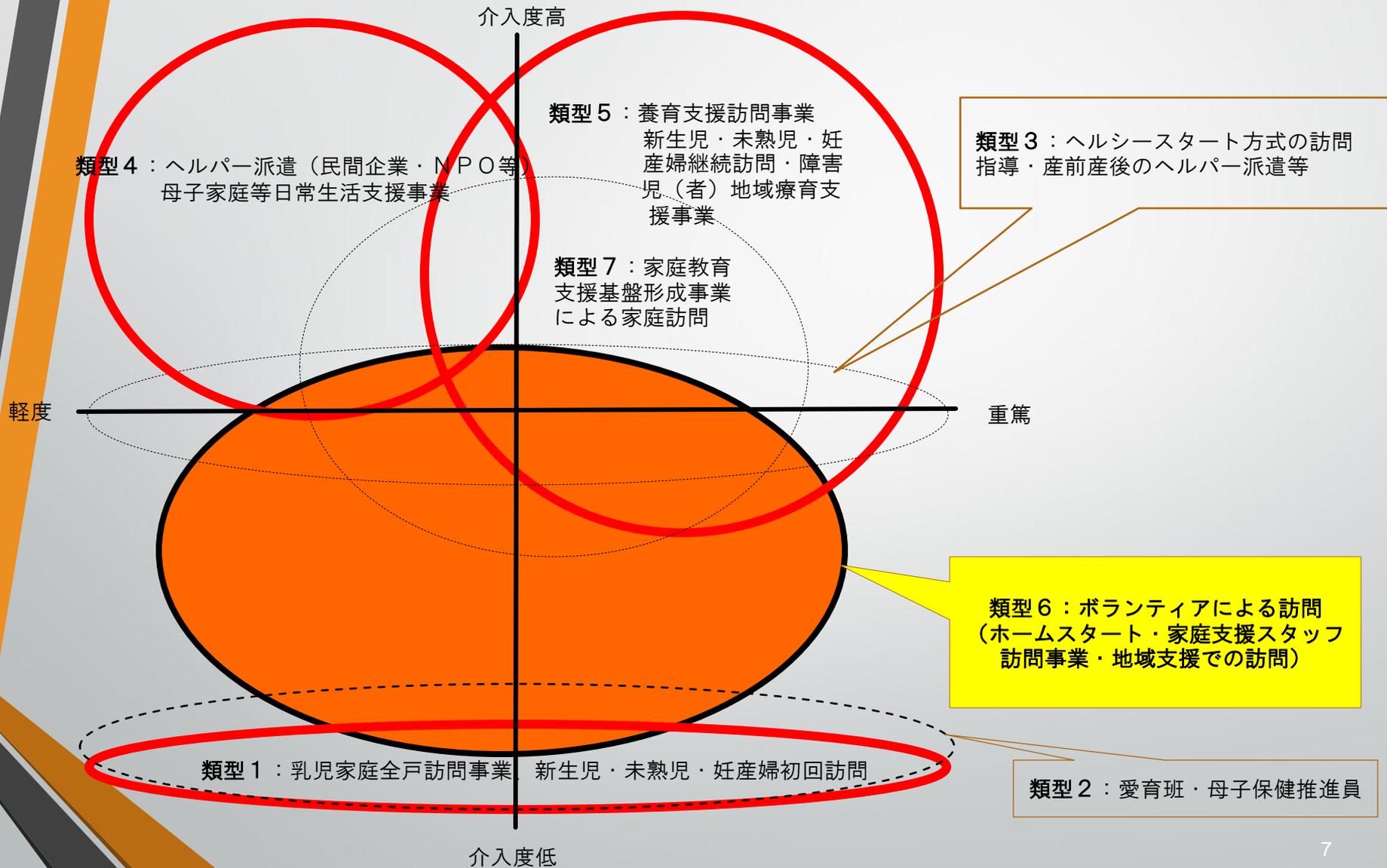
**孤立して悩んでいる子育て家庭が増加**

**より積極的な支援(届ける支援)**

**「ホームビジティング」  
の強化が政策課題**

# 親を対象とした家庭訪問支援事業・活動マップ

®



しかし、グレーゾーンへの  
「届ける支援」は無い

\* レッド・イエローゾーンへの支援も不十分

# グレーゾーンで 虐待への進行を止めることも 「新しい」施策課題

レッドゾーン

イエローゾーン

グレーゾーン

ホワイトゾーン

**予防領域の支援例として  
「ホームスタート」を紹介する**

# ホームスタートの特徴 1

施策のすきま(Niche)に支援できる

地域子育て支援拠点を  
利用していない孤立家庭とは  
どんな家庭だと思いますか？



## 施策のすきま(Niche)に支援できる

### ●地域子育て支援拠点事業に

出てこない親・来れない親???がいるよね . . . . . !

### ●乳児家庭全戸訪問事業で発見された

気になる家庭を発見しても継続したケアができない!!!

### ●養育支援訪問事業で対応できない

気になる家庭（グレーゾーン家庭）には支援できない!!!

### ●ファミサポ(子育て援助活動支援事業)でケアできない

親の気持ちを十分に聞けない! お金を払えない家庭はどうする?

\* 母子家庭等日常生活支援事業 修学等や、疾病などの一時的な家事、保育等に対応

## ホームスタートの特徴 2

市民が参画できるように支援方法は「**シンプル**」

子育て経験者が、週に1回2時間程度、家庭を訪問し傾聴と協働するボランティア活動

## ホームスタートの特徴 3

**安心・安全な支援システム**

アセスメントからエバリュエーションまでのプロセス管理システム

## ホームスタートの特徴 4

ホームスタートの**効果は高い**！

改善されたニーズの割合は89%



## ホームスタートの特徴 5

**「国の制度」**が利用可能

利用者支援や地域子育て支援拠点事業、産前・産後ケア事業でに実施が可能

## 提 案

拠点による支援だけでなく届ける支援  
「ホームビジテイング」の重点化

事後対応だけではなく  
「発生予防」領域の充実を



# 子どもの未来のために オリンピックを活用

—東京から日本を変える！—

**20世紀末**

**イギリスでは子どもたちの心と体が**

**崩壊していった**

そこで、「遊び場」と「スポーツ」推進の  
トレンドを作るため  
フレアはオリンピックを誘致した

でも、なぜ「遊び場」なのか？

\*

## 遊びの効果 がわかっていた

\* 運動能力・体力・免疫力・情緒の安定・知的好奇心・非認知的能力（生きる力）等の向上

# 日本でも「子どもの心身が危ない」

- ・幼児の微症状の中で親が気にしている1位は「子どもがイライラすることがある」
- ・幼児の親の子どもに関する日頃の悩みの1位は食事、その中でも偏食が1位
- ・半数の幼児がなかなか起きられない
- ・子どもの体力は長期的に見ると依然低い水準、子どもの骨折はここ30年で2倍
- ・文科省の調査で子どもの体力は低迷している
- ・背筋力低下で背筋力測定中止
- ・肩こり、朝からあくび
- ・高血圧(高血圧症で入院する小児の数が、この10年でほぼ2倍)
- ・肥満(30年前と比べると2-3倍に増加し各年齢の子供の5~12%に肥満)
- ・顔面制動　ほか

**低体力、睡眠不足、偏食、情緒が不安定、非認知的能力の低下**

# 危機解決の方法は？

## 「幼児から屋外で遊ぶこと」

### 外遊びの調査等から

- ・ **スウェーデンの調査**

「運動能力が高く、情緒が安定する」

パトリック・グラーン (Patrik Grahn) ら

- ・ **日本の調査**

免疫力・体力・運動能力・知的好奇心・情緒の安定に効果

- ・ **子どもがやりたいことは？**

時間があれば仲間と外遊び

- ・ **日本建築学会も**

「接地」と「自然とのふれあい」重視



## コラム:

# 子ども・子育て支援の重点時期は「幼児期」

## ■ The Perry Pre-school study(1962-)

- ・ 非認知的能力（創造性・好奇心・忍耐力・社会性）
- ・ 社会的投資収益率は1.15-1.17倍

## ■ James Joseph Heckmanの主張

- ・ 大人になってからの投資の6倍の効果

## ■ OECD Strong Starting i・ ii・ iii



●ECEC(Early childhood education and care)の重要性

●とりわけ幼児期はスポーツより体を使った遊びが大切

# 事例：世田谷区の場合

屋外遊びを  
すべての幼児と子どもに！

**新規事業** 屋外型子育て支援中央拠点

\*世田谷区とNPO法人プレーパークせたがやとの協働事業

# 「外遊びを全区の乳幼児親子に！！世田谷モデル」

## 5 屋外活動推進型子育て支援拠点 「外遊び推奨おでかけひろば」

- A. プレーパーク近隣に施設を設置し、プレーパークに毎日出かけていく（森の幼稚園型）。
- B. 空白地帯に施設を設置し、屋外の遊び場に毎日出かけていく。



- ①はじめての外遊び支援
- ②0,1,2親子の居場所づくり支援
- ③父親の育児支援・居場所づくり支援
- ④0,1,2親子対象の外遊びイベント主催
- ⑤0,1,2親子対象の子育て講座主催
- ⑥親どうしの子育てピアカウンセリング
- ⑦専任スタッフの配置
- ⑧乳幼児外遊び専門プレーワーカーの配置

## 4 広域的な空白地帯の対策 「プレーカー」

車に遊具を積んで、プレーリーダーとスタッフが公園に出張。空白地域を広域的にカバー。

- ①プレーパークが無い地域の0,1,2親子の初めての外遊び支援
- ②近隣幼稚園・保育園などの外遊び支援
- ③幼児サークルの外遊び支援
- ④父親の育児支援



## 3 各拠点からのひろがり 「プレーリヤカー」

リヤカーに遊具を積んで、プレーリーダーとスタッフが近隣公園に出張。プレーパークから徒歩20分圏内公園をカバー。

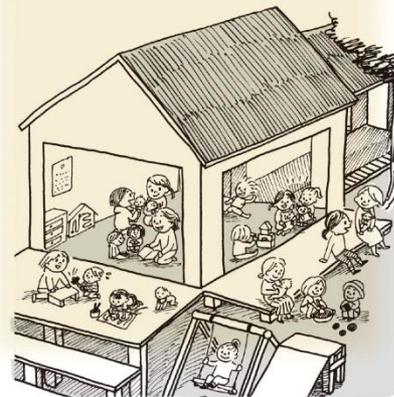
- ①プレーパークに来られない0,1,2親子の初めての外遊び支援
- ②公園での外遊びの仲間づくり支援
- ③父親の育児支援
- ④近隣幼稚園・保育園などの外遊び支援



## 1 屋外型地域子育て支援中央拠点 「そらまめハウス」

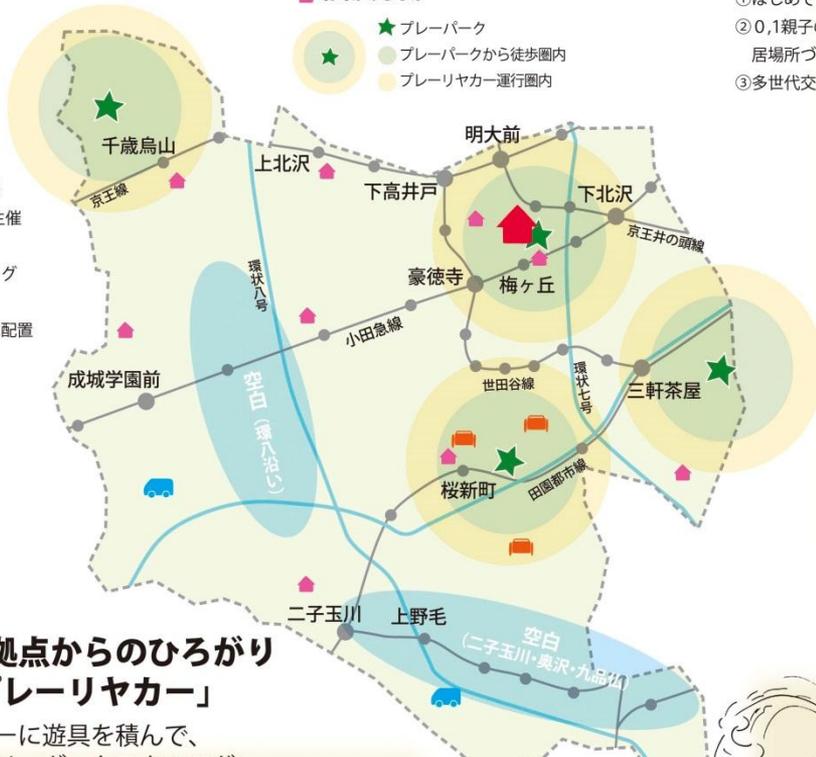
羽根木プレーパーク内乳幼児と多世代の交流拠点。

- ①はじめての外遊び支援
- ②0,1親子の居場所づくり支援
- ③多世代交流支援
- ④父親の育児支援・居場所づくり支援
- ⑤0,1親子対象の外遊びイベント主催
- ⑥0,1親子対象の子育て講座主催
- ⑦親どうしの子育てピアカウンセリング
- ⑧専任スタッフの配置
- ⑨乳幼児外遊び専門プレーワーカーの配置
- ⑩屋外型子育て支援拠点専任スタッフの研修
- ⑪乳幼児外遊び専門プレーワーカーの研修



- ①0,1,2親子の外遊び支援
- ②0,1,2親子の外遊びの仲間づくり支援
- ③0,1,2親子の屋外の居場所づくり支援
- ④0,1,2親子対象の外遊びイベント主催
- ⑤近隣幼稚園・保育園などの外遊び支援
- ⑥児童館・幼児サークルの外遊び支援
- ⑦自主保育、幼児サークルの拠点

## 2 屋外型子育て支援エリア拠点 プレーパーク（区内4カ所）



# 提 案

オリンピックで  
すべての子どもたちの  
心身の土台を作る！



- 「ホームビジティング」の導入  
(といわけグレーゾーンの重点化)



- オリンピックを活用して  
屋外での遊びで心身の土台を作る  
(といわけ幼児とその保護者重点)

## 写真等提供

特定非営利活動法人ホームスタート・ジャパン（3・4・25ページ）

特定非営利活動法人プレーパークせたがや（3・15・20・23・25ページ）